



大野城市市制施行50周年記念市勢要覧

Onojo City 50th Anniversary

大野城市

市制施行50周年記念市勢要覧

大野城市市勢要覧

令和4年12月発行

大野城市総合政策部プロモーション推進課
〒816-8510 福岡県大野城市曙町2丁目2番1号
TEL 092-501-2211 (代) コールセンター





ごあいさつ

大野城市は、今年4月に市制施行から50周年という記念すべき節目の年を迎えました。昭和47年に誕生以来、一貫して“コミュニティによるまちづくり”を市政の基軸とし、さまざまな分野で市民同士さらには市民と行政とが一体となってまちづくりを進めてまいりました。

この半世紀は、先人たちの英知とたゆみないご尽力により全国有数のコミュニティ都市として発展を遂げてきた歴史でもあります。今年8月には、私たちの長年の願いであった西鉄天神大牟田線の高架切り替えが完了し、これまで大野城市の発展を支えてきた鉄道インフラが生まれ変わりました。高架下や高架沿いは、これから木々のみどりや散歩路、広場等ができ、大野城市の新しい顔となります。

今を託されている私たちは、ふるさと大野城への想いを深化させながら、100年先の世代にも喜んでもらえる夢のあるまちづくりに、さらに取り組んでまいります。

大野城市長

井本宗司

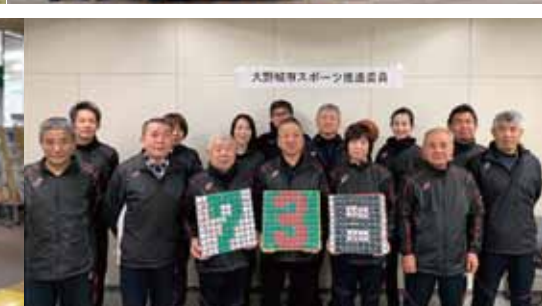
CONTENTS 目次

- | | | | |
|----|--------------------|----|-------------------------|
| 1 | ごあいさつ | 19 | 特集3：御笠川から見た半世紀 |
| 3 | 第1部 市制50周年記念事業 | 23 | 第2部 未来をひらく4つの政策 |
| 9 | 50年後の大野城市未来予想図 | 41 | 第3部 大野城市のあゆみ |
| 11 | 特集1：いいとこ発見（わがまち自慢） | 49 | 大野城市のあらまし |
| 13 | 特集2：まどかな心を未来へつなぐ | 53 | 大野城市の50年をたどる
すごろくゲーム |



第1部 市制 50 周年記念事業 カウントダウン









市制 50 周年記念事業



大野城市は令和4年度に市制50周年を迎えました。記念事業を実施するにあたり、キャッチフレーズとして「歴史を受け継ぎ 未来へつなげる まどかな市」を掲げています。

将来の大野城市を創っていく世代に、先人たちの想いを継承するとともに、次の50年につながるまちづくりの契機とするため、全市を挙げて市制50周年を祝い、ふるさと大野城への誇りと愛着を深めるため、さまざまな記念事業を実施しています。



シンボルマーク



オープニングセレモニー

市が50歳の誕生日を迎えた令和4年4月1日に市役所まどか広場でオープニングセレモニーを実施しました。筑紫中央高校書道部によるパフォーマンスやラッピングバスのお披露目、市制40周年の時に預かりした未来配達便の出発式などを行いました。天候にも恵まれ、記念すべき節目の年のスタートにふさわしい1日となりました。



博多どんたく港まつりパレード参加

地域のみなさん・市議会議員・実行委員・職員などによるパレード隊を編成。おそろいのTシャツを着て、大野城讃歌に合わせて踊りながら、呉服町交差点付近～福岡市役所付近の約1.3kmをパレードしました。



下大利駅新駅舎プレオープン事業

新しくなった西鉄下大利駅の駅舎見学や大野城市・西鉄沿線の今昔写真パネル展・駅前マルシェを開催しました。高架開通前の線路(下大利～白木原駅間)の一部を歩く高架線路ウォークでは、抽選に当たった約900人が、この時にしかできない貴重な体験をしました。

まどかマルシェ

市内7会場で商工会・市内各商店会やNPO法人共働のまち大野城などの協力によるマルシェや高架化に伴って撤去される線路を歩く廃線ウォーク、消防車やパトカー・自衛隊車両・レッカー車やパッカー車・高所作業車を展示するいろんな車大集合展を実施しました。

豪華景品が当たるスタンプラリーや西鉄下大利駅・白木原駅・春日原駅間が無料になる西鉄電車記念無料乗車券も発行し、延べ約13万5千人もの人々にお越しいただきました。



市役所会場：マルシェ



下大利会場：マルシェ



白木原会場：マルシェ



春日原駅前通り会場：マルシェ



西鉄電車記念無料乗車券：表・裏



春日原1～2号踏切：廃線ウォーク



心のふるさと館：オリジナルグッズ展



総合開会式：筒井保育所園児によるダンス披露



大野中学校：いろんな車大集合展

記念グッズ

大野ジョーやまどかちゃん、シンボルマークをあしらった市制50周年記念グッズを作成しました。経営戦略課(市役所3階)やここふるショップ(大野城心のふるさと館1階)で販売しています。

マスク(白・ネイビー):400円/枚

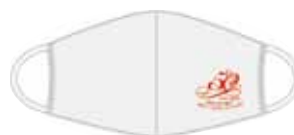
缶バッジ(紅白・虹):100円/個

ステッカー:50円/枚

タオル:500円/枚

ポロシャツ(S・M・L・LLの4サイズ):1,200円/枚

※販売は令和5年3月31日まで



50年後の大野城市未来予想図

市制50周年記念事業の一環として、「未来の大野城市はどうなっているだろう?」をテーマに、小学校5・6年生から大野城市の未来予想図を募集しました。応募総数1,234点の中から特別賞5点・金賞4点・銀賞7点・銅賞12点・入選18点を決定しました。受賞作品のうち、特別賞および金賞の作品をご紹介します。(敬称略)



市長賞

<未来予想図に込めた願い>

50年後の大野城市は緑あふれる市になったらいいなと思いました。さらに、まどかぴあに四方を見渡せる展望台や、まどかぴあと心のふるさと館を直接つなぐ歩道橋ができればいいなと思いました。

<市長コメント>

街中のいたるところに緑があふれ、作者の願いがとても上手に表現されています。歩道橋で2つの施設がつながり、充実した市民交流が生まれることが期待されます。

今年、高架切り替えを行った西鉄電車も描かれ、構図も良く、よく観察し、よく考えて描かれた作品であることが伝わってきます。



ムハンマド ファドリ アル ムサフィ (大野北小学校5年生)

教育長賞

<未来予想図に込めた願い>

願いはワクワクドキドキ幸せの町です。この絵では自分の学校のシンボル「センダンの木」がどんどん大きくなり、町は自然もありつつ豊かに幸せに暮らせます。そして人間以外にもクジラやウサギなどの動物と過ごせます。センダンの木にお菓子が実る、色んな物に羽をつけて飛べるなどワクワクもあふれています。

<教育長コメント>

大野小学校のシンボル「センダンの木」が50年後も生き生きと茂ってほしいという願いが、ひしひしと伝わってくる作品です。大きく育った木には、色んな生き物や食べ物が集まるファンタジックな世界が描かれています。楽しく幸せな未来が描かれた、子どもらしい感性に溢れた作品だと思います。



佐藤 心花 (大野小学校5年生)

市制 50 周年記念事業実行委員会会長賞

<未来予想図に込めた願い>

ぼくは未来が明るい町だったらいいなと思いました。なので、道は明るい黄色や黄緑色を使いました。そして空には魚がいて気軽に見られたらいいと思って描きました。そして未来では、大野城市の人全員があいさつをするといいなと思ったので絵に描きました。あいさつをするとみんな笑顔になるといいなと思いました。

<会長コメント>

昔のお城のような建物と未来の建物。空飛ぶ絨毯にエアカー。そして謎の円盤に恐竜、空飛ぶ魚たち。ギリシャ神話のイカロスを彷彿とさせる空飛ぶ人々も描かれています。過去と未来、全ての生き物が共存するおとぎ話のような世界で、いつも「あいさつ」を忘れない「笑顔の人々」。そんな大野城市であってほしいと、私も思います。



鈴木 悠之介 (大野小学校6年生)

審査員特別賞



豊永 美羽 (大野小学校6年生)

<未来予想図に込めた願い>

車が自動と手動の2種類の運転ができて、事故が起きそうになると高く飛び、事故を回避することができる(常に少し浮いている)。自然環境もとても良く、動物と共存できる世界です。

審査員特別賞



山下 未紗 (大野小学校6年生)

<未来予想図に込めた願い>

私は、今では絶対にあり得ない町になっていてほしいので、魚が浮かんでいたり、辺り一面に水がある絵を描きました。大きなジンベイザメを上にも描いたのは、私がただ単に好きだからだけど、こういう未来もいいなと思いました。

金賞



古賀 琉聖 (大野小学校6年生)

<未来予想図に込めた願い>

50年後の大野城市は、まず、戦争のない平和な世界であってほしいと思います。今、戦争をしているニュースを見ていると悲しい気持ちになります。戦争のない世界がぼくの願いです。そして、ドラえもんの世界のような自動車や電車が空を飛ぶ夢のような素敵な世界が日常になってほしいです。

金賞



本田 匠人 (大野小学校6年生)

<未来予想図に込めた願い>

いつも通りの高層ビル。いつも通りの日常。いつも通りのカラス。いつも通りの夕日。変わったこともなくて、戦争のない50年後であってほしいという願いを込めました。

金賞



輪内 友哉 (大野小学校5年生)

<未来予想図に込めた願い>

車に羽が付けてあって、電車も空を飛び、高速道路や線路がなくなり、道路までもなくなって家の敷地が広がっていったらいいし、いつまでも四王寺山の「大」は残っていてほしいなあ。

金賞



染原 瑠奈 (御笠の森小学校6年生)

<未来予想図に込めた願い>

私は、大野城市が人々の温かさ、自然の豊かさを残し、技術を取り入れ、人々が暮らしやすいまどかな大野城市になったらいいなあと思いました。歴史や人々の温かさを残し、未来の技術を取り入れて、みんな笑って暮らせるようなところになってほしいと思いました。

特集1

いいところ発見(わがまち自慢)



平野神社でフクロウが
みられる。
自然が多く、公園など
遊ぶ所も多い。



- ・牛頸ダム…桜がとてもきれいです。
- ・コミュニティセンターなどのスポーツ施設が充実しています。
- ・豆香洞コーヒー…オーナーはコーヒー焙煎の世界大会で優勝経験があります。
- ・太平閣の豚まん…大阪の「551HORAI」の豚まんよりおいしいです。
- ・平野松栄堂の「おはぎ」も絶品です。



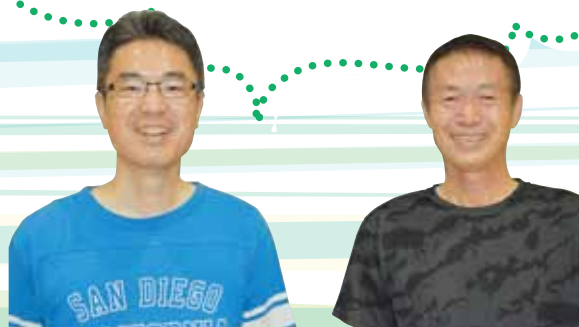
- ・コミュニティ施設が整っていて、使いやすいです。スポーツが盛んです。
- ・自然とまちの調和がとれています。
- ・「大」の字が点灯する「おおの山城大文字まつり」が素晴らしいです。
- ・marooncafe(マルーンカフェ)…3号線沿いのオシャレなカフェ。いろんな料理があつてとてもおいしいです。



・三兼池公園

…犬の散歩にぴったり。
広くて駐車場もあって便利です。

- ・四王寺山…道(大野城トレイル)が整備されています。市街地の近くなのに自然がいっぱいです。
- ・交通の便が良くて住みやすいまちです。西鉄が高架化されて一層よくなりました。



牛頸ダムが好きです。移住して来た42年前、まだダムになっていない、ため池のようなダムに生えた一本の松の木の下で魚を釣った思い出が忘れられません。



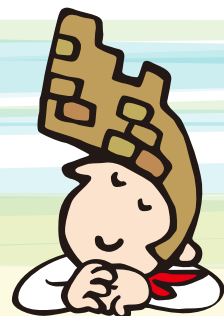
交通のアクセスが良くて、
生活がしやすいです！



駅が近くて、天神などに
行きやすいこと、まちの人みんなが
とても優しいところです。
大野城市に住んでよかったと
思いました！



イベントがあり楽しい。
とくに大文字まつりなど。
白木原駅が新しくなったこと
交通の便がいい。



地域の人が優しくて、
しゃべりやすい。
白木原駅などが上に上がって
使いやすい。
お祭りがあって楽しい。
また、イベントが
たくさんあって楽しい。
交通の便がいい。



高速が近い！
電車も近い！
施設がたくさんで嬉しい！
緑がたくさん！

ホテルが見られる！



赤ちゃんが楽しめる遊び場が
たくさんあって、公園も多いので
大きくなっても遊べる場所が
たくさんある。



・交通の便がとても良い！
・地域のつながりが強く、
イベント盛りだくさん！！





歴史と文化をつなぐにぎわいの市民まつり。市制10周年を記念して昭和57年から始まりました。日本最古の山城「大野城」を守り伝え、皆が笑顔で楽しめるよう、多くの人々の協力により創り上げられてきました。

台風や新型コロナウイルス感染症の影響で3年間中止や延期を余儀なくされましたが、記念すべき市制施行50周年の節目に、第40回目のまつりが無事に開催されました。



昔と今のおおの山城大文字まつり

メイン会場 市役所前広場から大文字公園に移動しました。



大文字の点灯 昔は重い発電機を山に運んで灯していましたが、今は電線を引いてスイッチで点灯しています。



採火式 大文字の火を採る儀式は、昔も今も虫眼鏡で行っています。



おみこし



メインステージ



すべての人にスポーツを SPORTS FOR ALL

大野城市ではコミュニティ施設と学校開放施設の貸し出しを行うとともに、スポーツ指導を担う地域の指導者を養成しています。これらの取組によって、放課後や土・日曜日、祝日などにスポーツを行える環境が整い、活発にスポーツが行われています。平成12年以降、大野城市出身の選手がオリンピックや世界選手権に出場するなど世界で活躍する人も現れ、スポーツ少年団の子どもたちやその指導者に大きな夢や希望を与えています。

人と人が出会い、交流するスポーツ

昭和40年代の人口急増に伴い地域連帯感が低下し、近隣住民同士のつながりが希薄になりつつあったことから、スポーツを行うことでお互いが交流するきっかけとなるように、体育施設を中心にコミュニティ施設の建設と、スポーツによるコミュニティづくりを進めました。また、その推進役を大野城市体育協会（現在の（公財）大野城市スポーツ協会）と体育指導委員（現在のスポーツ推進委員）が担いました。

昭和51年頃には、「一部強者のスポーツでは、地域住民のスポーツ参加意欲を高められない」との反省から、レクリエーション的要素を取り入れるようになりました。「みんなで考え、みんなでしよう、みんなのスポーツ」を合言葉に、「コミュニティづくりは住民自らの手で」創造するべきであるとの考えから、昭和53年以降、「住民全体の」「だれにもできる」「強い者が勝たない」「多くの人が参加できる」をコンセプトに、コミュニティ地区大運動大会が開催されるようになりました。

このような住民同士の交流や連帯感を醸成するための取組は、現在の区やコミュニティのスポーツイベントに受け継がれています。

スポーツ少年団の広がり

昭和39年に市内で初めて大野剣道スポーツ少年団が創設され、その後、大野城市体育協会が創立された昭和45年には、スポーツ少年団は5団体（剣道3、サッカー1、バドミントン1）に増え、登録団員数も157人となりました。令和3年度末は50団体、登録団員数1,342人の子どもたちが、元気いっぱいに活動しています。



昭和 52 年 区対抗スポーツ大会



大野城市スポーツ協会紹介ページ





まどかリンピック

“まどかスポーツの日”(9月第2日曜日)からスポーツの日(10月第2月曜日)までをスポーツ推進月間と定め、期間中は市民陸上競技大会や市民綱引大会、大文字テニス大会の他、各種競技大会などが行われています。

“まどかスポーツの日”は、平成2年に福岡県で開催された「とびうめ国体」を記念し、国体の意義・目的やそれに沿った市民活動を国体終了後も継続していくために制定しました。

その当時、大野城市で開催された国体弓道競技の“きゅうどう”という読み方にちなんで、9月10日を“まどかスポーツの日”としていましたが、現在は9月第2日曜日を“まどかスポーツの日”としています。



MADOKA れくスポ祭

スポーツ推進月間の最終日に、締めくくりの事業として「MADOKA れくスポ祭」を開催しています。“だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも楽しめる”レクリエーションスポーツの普及を目的としており、さまざまなニュースポーツ、軽スポーツを体験することができます。



パーフェクトショット



ユニカール



ストラックアウト(ディスク)



ターゲットバードゴルフ



五目お手玉



大野城歩こう会(北地区ウォーキング)

まどかフェスティバル

秋の一大イベントとして、市民に親しまれています。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、初のオンライン開催となりました。

同時開催するイベント

- ・生涯学習展
- ・まちづくり産業展
- ・英語・日本語スピーチコンテスト
- ・国際交流フェスティバル
- ・まどか文化祭
- ・おいでよ！ここふるランド
- ・健康・食育フェスティバル
- ・御笠川・牛頸川・平野川フェスタ
- ・みどりの広場
- ・心の教育フェスティバル など



特集3

御笠川から見た半世紀

普段は、穏やかに水が流れる御笠川。大野城市で所蔵している写真を基に、その過去と現在をたどってみましょう。

今では、御笠川の周辺は交通の便に恵まれています。昭和20年以來、10年から数年に一度の大雨がふる度に、氾濫が起きたり、堤防から水が越流したりすることがあり、その周辺の住宅や農地で被害が発生し、河川の改修は永年の懸念となっていました。

この地域で快適な居住環境をつくり出すために、昭和58年から平成17年までの22年間で河川改修を行い、その後、周辺の環境整備が行われ、今に至っています。

■昭和 38 年(1963 年)6 月 29 日～ 30 日 集中豪雨による大氾濫、農地への甚大な被害



■昭和 47 年(1972 年)7 月 4 日、10 日～ 30 日 集中豪雨による河川の氾濫、堤防の損決壊



河川を改修しました

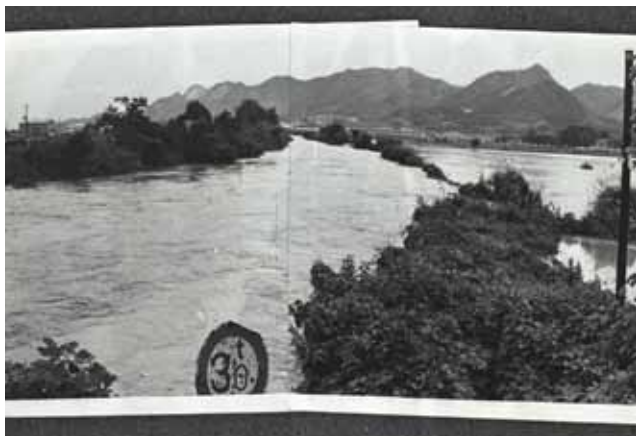


昭和58年時点の御笠川



平成17年3月時点の御笠川

■昭和 48 年(1973 年)7 月 30 日～ 31 日 集中豪雨による氾濫、断水や濁水のため給水車での給水活動



■平成 11 年(1999 年)6 月 29 日 集中豪雨、堤防のり面の洗掘対策



■平成 15 年(2003 年)7 月 19 日 豪雨、堤防のり面の洗掘対策



ぜき
井堰を改修しました



昭和52年(1977年)石井手井堰



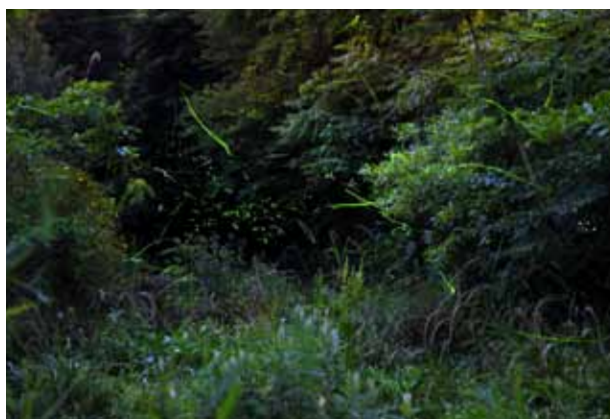
2010年(平成22年)改修後の畑詰井堰

人々に親しまれてきた御笠川の風景

■御笠川・牛頸川・平野川フェスタ

昭和63年に「御笠川フェスタ」として始まり、市の中心部を流れる河川を清掃する「クリーンウォーク」をメインに、河川的环境浄化に対する理解を深め、環境にやさしいまちづくりを行うことを目的としています。

現在では、活動範囲を牛頸川・平野川まで広げてきており、「御笠川・牛頸川・平野川フェスタ」として一層の事業拡充を図り、市民の環境美化に対する意識の向上に努めています。



ホタルの乱舞 (2009年撮影)

■ホタル保護活動の開設

昭和60年、環境保全活動を通じたホタルの保護を目的に、牛頸ホタル部会が発足し、市内では唯一牛頸川上流にしか生息していないゲンジボタルの保護・繁殖、川の清掃活動、小学生へのホタルの講話などを行っています。

今では、福岡都市圏では有数のホタルの名所の一つに数えられるほどになりました。



草刈り

■「御笠川のくさかりたい」によるボランティア活動

「御笠川のくさかりたい」は、自らの手で御笠川的环境美化に取り組んでいる団体で、平成10年春に発足しました。

発足当時は6人で活動していましたが、現在は42人で年間4日(5月に2回、10月に2回)御笠川の堤防の草刈りを行っています。



懐かしい風景



昭和61年大野城橋開通式



平成11年筒井橋開通式



いかだ大会(昭和64年)



昭和63年に開催した、とびうめ国体記念いかだ大会を紹介した広報「おおのじょう」9月1日号

政策1 地域と行政の共働による魅力輝くまちづくり

1 コミュニティのあゆみ

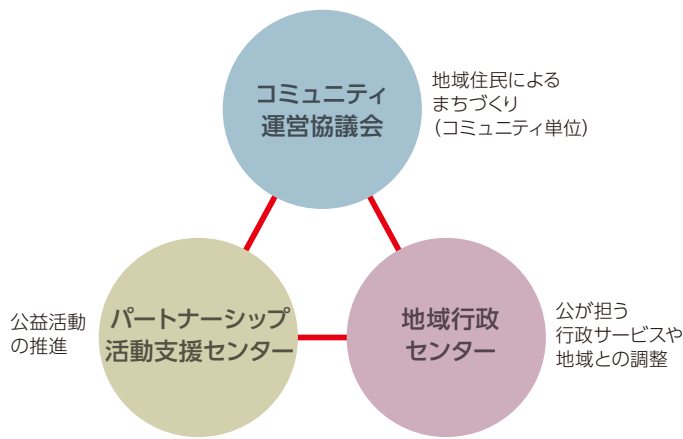
大野城市の前身である大野村は、1889年に3,800人あまりの人口で誕生しました。古くから博多と大宰府を結ぶ交通の要衝であり、戦後の福岡の発展とともに、1950年には人口が10,000人を突破、大野町となりました。

その頃から、急速に宅地開発も進み、人口も急増していく一方で、新旧住民の間の不和が問題視されるようになりました。そのような状況の中、住民自らが新旧住民の融和を求める声が広がり、町民総ぐるみの融和運動である「まどか運動」の起こりとなりました。

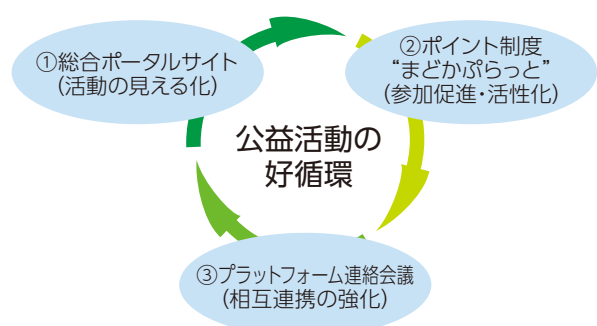
「まどか運動」では町民同士のあいさつの奨励の他、後の「大文字まつり」や「まどかりンピック」へとつながっていく、地域の運動会や文化祭などの行事が開催され、ふるさと意識や地域の連帯感が醸成されていきました。

このような住民自らの活動が認められ、1971年に南地区が自治省からモデルコミュニティ地区の指定を受け、翌年には市制施行となり、現在、半世紀を迎えます。

「まどか運動」に始まった「自分たちのまちを自分たちでつくっていこう」という風土は今も大野城市のまちづくりの根幹となっています。



コミュニティセンター内の組織図



市民公益活動プラットフォーム

2 これまでのまちづくり

大野城市では市制施行以来、一貫して地域住民のつながりを大切に「コミュニティによるまちづくり」を進めてきました。大野城市のコミュニティの将来像とさまざまな施策をまとめた「コミュニティ構想」に基づいて、施設の整備や仕組みづくりを進めています。

市内4地区にある各コミュニティセンター内には「地域行政センター」「パートナーシップ活動支援センター」「コミュニティ運営協議会」が設置され、「パートナーシップの構築」と「都市内分権の推進」が進められています。

なかでも市内の自治組織、NPOなどが行う公益活動を「見える化」し、活動への参加促進や活性化を図るため、活動を行う団体と参加者が「共通」で利用できる「市民公益活動促進プラットフォーム」は、特徴的な取組として広がりをを見せています。

3 これからのまちづくり

少子高齢化や人口減少、多様性の尊重や頻発する自然災害など、地域社会が抱える課題は複雑化・肥大化する一方で、猛威を振るう「新型コロナウイルス」の影響により、地域活動をはじめとした公益活動が制限され、コミュニティに求められるものは大きく変化してきています。

今後はこれまで以上に、自治組織や行政、NPO、企業、学校など、地域の中の多様な主体が手を取り合い、共働で新たな時代に即したさまざまな取組を展開していく必要があります。「まどか運動」に始まった住民同士の「融和」への願いや想いの原点に立ち返りながら、市民が主役のまちづくりのさらなるシンカ（深化・進化・新化）を図り、これからの50年につないでいきます。

パートナーシップによるまちづくり

平成29年3月策定の「コミュニティ構想ver.2」の期間にはパートナーシップによるまちづくりを掲げ、数多く取組を実施していますが、地域の高齢者向けには移動支援や買い物支援事業があります。丘陵地を多く含む南地域や東地域の「コミュニティ運営協議会」が中心となって運営する、高齢者移動支援事業「ふれあい号」「おげんき号」は地域の高齢者の移動手段として活用されています。また、買い物支援事業「ふれあい市場」は南地区の高齢者の交流の場としても楽しく開催されています。



ふれあい号（南地区）



おげんき号（東地区）



ふれあい市場

他にも「パートナーシップ支援センター」では買い物支援事業「ごきげんお届け便」を市内全域で実施しています。一般的な宅配ネットスーパーは便利ですが、インターネットが利用できない高齢者のために、市、イオン大野城店との共働により食料品や日用品などをカタログから選んで電話で注文、自宅商品宅配時に現金精算ができるという利便性が評価されています。



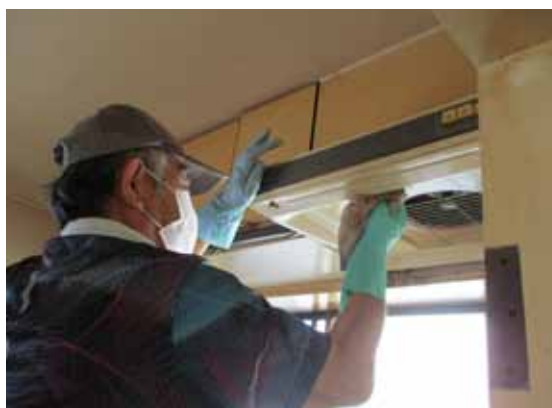
南パートナーシップ活動支援センター



平成25年度に日常生活のさまざまな困りごとを改善・解決につなげるため、おタスケさん（ボランティア）が地域でお困りの人の解決のお手伝いをする制度として「使ってバンク」を暮らしのサポート事業を開始しました。

「ありがとう券」のやりとりを通して、地域住民同士で支え、支えられる仕組みで、パートナーシップ活動支援センター（コミュニティセンター内）で登録や受付をしています。

活動の例：ごみ出し、電球交換、草取り、窓ふき、家具の移動など10分から60分程度で行える活動





市民ミュージアム 大野城心のふるさと館

大野城心のふるさと館紹介ページ



市民ミュージアム「大野城心のふるさと館」では、歴史・こども・にぎわいをキーワードに「ふるさと大野城」をまるごと体感することができます。

大野城跡の百間（ひゃっけん）石垣の高さを体験できる「百間石垣ウォール・クライミング」や昭和20～40年代の農家を再現した「昭和のくらしコーナー」の他、特別展などのイベントも盛りだくさん！

また、1階のここふるショップでは、大野城市の特産品・推奨品の販売や日替わりランチなども楽しむことができます。

■場 所

大野城市曙町3-8-3

■開館日

平日（月曜日を除く）、土・日曜日、祝日
午前9時～午後7時

■休館日

月曜日（月曜日が祝日の場合、翌平日）、
年末年始（12月28日～1月4日）



百間石垣ウォール・クライミング



ここふるショップ&カフェ



大野城タイムライン



企画展示室

ふるサポの会



大野城心のふるさと館では、事業運営の支援を行うボランティア組織「ふるサポの会」を設置しています。

ふるサポの会会員は、「ここふるサポーター」として展示解説やイベントなどの運営支援、ここふるサポーター自らが提案した事業の実施などを行っており、市民ミュージアムとしての重要な役割を担っています。



山城楽講

大野城市史跡案内ボランティア「山城楽講」は、平成22年に大野城市で開催された第1回古代山城サミットを契機に発足しました。山城楽講の会員は、大野城跡や水城跡などの史跡見学のイベントでガイドとして活動しています。

大野城市内の日本遺産と文化財！

「日本遺産 (Japan Heritage)」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。平成27年に太宰府市が認定を受けた日本遺産「古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～」が令和2年6月に拡充されました。その範囲は大野城市・筑紫野市・春日市・那珂川市・宇美町・佐賀県の基山町に広がり、計30件の構成文化財でストーリーが構成されています。

30件の構成文化財のうち、市内には「大野城跡」「水城跡」「牛頸須恵器窯跡」「牛頸須恵器窯跡出土ヘラ書き須恵器」「善一田古墳群」「御笠の森」の6件があります。

また、市内には日本遺産の構成文化財以外にも多くの文化財があります。

これらは、ふるさとのお宝として、大野城心のふるさと館や現地では整備・活用しています。



JAPAN HERITAGE

日本遺産



大野城跡



水城跡



牛頸須恵器窯跡



牛頸須恵器窯跡出土ヘラ書き須恵器



善一田古墳群



御笠の森



貨布



木造聖観音立像



人面墨書土器

生涯学習・芸術文化

「大野城まどかぴあ」を中心に、生涯学習や芸術文化に親しむ市民風土が醸成され、市民が主体となった活動が展開されています。



大野城まどかぴあ

大野城まどかぴあ紹介ページ



図書館



生涯学習講座

「芸術文化振興プラン」に基づき、関係団体などとの連携を図りながら芸術文化の振興を図っています。



芸術文化 × OOO『やりたい!』がとびだすハンドブック



まどか文化祭



ジュニアときめき文化祭

市民が本とふれあう機会を増やすため、読書ボランティアの技術向上のための講座や活躍の場を提供するとともに、「まどかぴあ図書館」を中心に、地域などと連携した取組を行っています。



読書ボランティア講座



読書まつり



親子読書会



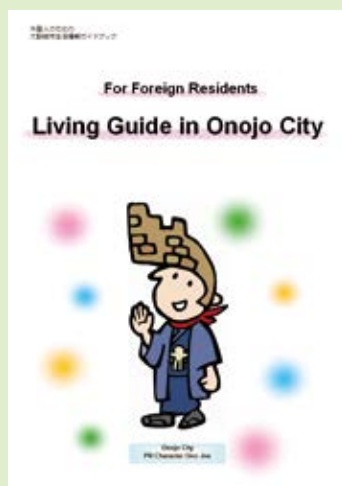
3代目
移動図書館
わくわく号

国際交流

大野城市国際交流協会は、平成9年に設立し、国際交流に尽力しています。平成29年には20周年を迎えました。コロナ禍であっても、外国人支援のための日本語講座やオンラインで海外との交流活動を続けています。また、市と災害時に外国人支援への協力に関する協定を結んでいます。



生活情報ガイドブック



大野城市では、転入した外国の人に、生活情報ガイドブックを配布するなど、情報提供をしています。

また、国際感覚が豊かな人材の育成を目指し、ホームステイの受け入れを行っています。



バーモント州ホームステイ サヨナラパーティ



オイスカとの交流イベント

人権・男女共同参画

関係団体と行政が連携しながら、一人一人の人権が尊重され、お互いを理解し、認め合う社会の実現をめざし、さまざまな啓発活動などを実施しています。

人権の花運動

市内の小学校において、毎年、人権擁護委員の協力のもと、ひまわりの種まき、支柱立て、観察（日記）、種取りなどを行っています。この運動は、花の生育を通して、生命の尊さを実感し、豊かな心や思いやりの心をもち、基本的人権の尊重についての理解を深めることを目的としています。



令和4年度実施校 大野東小学校



支柱立て



市民グループによる活動

男女平等推進センター「アスカーラ」

平成8年に男女共同参画の拠点施設となる「男女平等推進センター」をまどかびあ内に設置し、平成25年にはセンターの機能を拡充させて、「アスカーラ」の愛称とともにリニューアルしました。

市民の協力を得ながら男女共同参画社会の実現に向けてさまざまな事業を推進する一方で、市民グループなどが自ら企画・実施する取組を支援することで、性別にかかわらず誰もが自分らしく活躍できる地域社会の実現に向けて取り組んでいます。

妊娠・出産・子育てに関する切れ目ない支援の充実



すこやか交流プラザで開催した3歳児健診

安心して、妊娠・出産・子育てができるよう、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を目指して、平成31年4月1日に、こども健康課内に「大野城市子育て世代包括支援センター」を設置しました。

保健師や助産師などの専門職が、妊娠・出産・子育てに関するさまざまな相談に応じ、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行っています。

乳幼児の教育・保育環境の充実

共働き世帯の増加などを背景に、認可保育施設の定員拡充を進めてきました。令和4年4月現在、市内では、市立保育所3園の他、私立認可保育所13園、認定こども園3園、小規模保育事業所2園が運営されています。

今後も、幼稚園や届出保育施設、企業主導型保育事業所への支援も合わせて、笑顔あふれる子どもたちの健やかな成長を支えるために、教育・保育環境の充実に努めていきます。



保育所の芋ほりで収穫を喜ぶ子どもたち



大野北保育所の子どもたちから遊具寄贈者への感謝状等贈呈式



大野北小学校隣から御笠の森小学校隣に移転・新築した大野北保育所

れいわ子ども情報センター



れいわ子ども情報センターは、大文字公園に隣接した「すこやか交流プラザ」内にあります。

令和元年7月にリニューアルオープンしてスペースが広くなり、より利用しやすくなりました。

「遊び」「交流」「学習」「相談」などの役割を持つ地域の子育て支援の拠点施設です。

れいわ子ども情報センター紹介ページ



【施設紹介】

○1階 親子サロンフロア

就学前の乳幼児とその保護者が気軽に利用できる遊び場です。自由に遊べて保護者同士の交流ができます。

子育て情報の提供や育児相談も行なっています。

また、定期的に「おたのしみかい」や「絵本ライブラリー」も開催しています。

○3階 子育て応援フロア

子どもの年齢に応じた、気軽に参加できる「親子のための広場」を実施しています。

「親子で遊んでお友達をつくろう！」

・あかちゃん広場

子育て応援指導員と一緒に、親子のふれあい遊びを行います。

＜対象＞生後3カ月～12カ月の赤ちゃんとその保護者

・のびのび広場

子育て応援指導員と一緒に、親子のふれあい遊びを行います。

＜対象＞1歳児～2歳児とその保護者

・子育て広場

いろいろな遊びのコーナーで、親子が一緒に楽しめます。

＜対象＞就学前の乳幼児とその保護者

・園庭開放

保育所の園庭で遊べる機会を提供します。

＜対象＞就学前の乳幼児とその保護者

・ブックスタート

絵本の読み聞かせを通して、「親子が楽しくふれあう時間」を持つことを応援します。

＜対象＞市内にお住まいの生後4カ月～1歳3カ月までの赤ちゃんとその保護者（4カ月児健診の通知と同時に案内状を送ります。）

この他に、公民館親子サロンに指導員を派遣して、地域と一体となった子育てを支援しています。



親子サロン



ブックスタート

■場 所

大野城市瓦田4-2-1

すこやか交流プラザ（駐車場あり）

■1階 親子サロンフロア

＜開館時間＞午前10時～午後4時

＜休 館 日＞火曜日、第1日曜日、祝日（5月3日～5日は 開館）、年末年始（12月28日～1月4日）

■3階 子育て応援フロア

＜開館時間＞午前9時～午後5時

＜休 館 日＞土・日曜日、祝日、年末年始（12月28日～1月4日）

青少年の居場所ユープレ

青少年の居場所（愛称：ユープレ）は、若者がいつでも気軽に立ち寄り、自由な時間を過ごすことができる場所として、令和2年度に誕生しました。

中学生から29歳の人なら、だれでも無料で利用できます。全館でWi-Fiが使えます。安心して利用できるように、専任スタッフ（指導員）が見守りを行っており、話し相手になる他、相談もできます。

【施設紹介】

- ・フリースペース：好きなことをして過ごす場所です。ゲームや漫画もあります。
- ・学習室：快適な環境で自習に集中できます。
- ・調理室：料理や食事ができる場所です。



フリースペース



学習室



ユープレ紹介ページ



■場 所

大野城市筒井二丁目2番2号（旧下筒井公民館）駐輪場あり

■開館日

平日 午後1時～午後9時

休日（土・日・夏休みなどの期間）午前10時～午後6時

■休館日

年末年始（12月29日～1月3日）

子ども・若者育成フォーラム

「子ども・若者育成フォーラム」は、子どもや若者の健全な育成に関する事項について調査や審議をする「子ども・若者育成会議」が主催するイベントです。

これまで、乳幼児期から青年期までを対象に、「子育て」「スマートフォン(SNS)」「将来の夢」などのテーマで、パネルディスカッションを実施してきました。

対象世代のパネリストが自分の経験や主張を述べ合い、それらに対する来場者の意見も取り込みながら、会場が一体となって進行していくのが「子ども・若者育成フォーラム」の特徴です。



令和3年度「私の夢を言葉に！」



平成30年度「つながりが生み出す、新しい子育てのカタチ」

タブレットを使用した授業、オンライン授業など

国が推進するGIGAスクール構想に基づき、令和2年度に児童生徒1人1台タブレットおよび校内無線ネットワークを整備、令和2年度から令和4年度にかけて大型提示装置を各教室に整備しました。また令和2年度と令和3年度に指導者用デジタル教科書を小中学校に整備し、タブレットをはじめとするICTを活用した授業やオンライン授業を実施することができるようになりました。



オンライン講演会（大野北小学校）



タブレットによる理科の授業

はたちのつどい

毎年1月「成人の日」に「はたちのつどい（旧名称：新成人のつどい）」を開催しています。

つどいの内容企画、パンフレットの作成、記念品選定などは、その年の新成人などで組織する実行委員が約半年かけて準備し、当日の運営も行います。こうした経験から社会参画意識を身に付け、地域や社会のリーダーとして活躍される人も少なくありません。

新型コロナウイルス感染症の発生以降、つどいの規模は一時縮小して実施していますが、環境や心境が大きく変化する大切な時期を迎えた、はたちの皆さんを祝福・激励したいという思いは同じです。

これからも、はたちを迎えた皆さんのつどいの場を、共に作っていきます。



令和4年新成人のつどい



令和4年新成人のつどい実行委員の皆さん

音楽サロン

元気な高齢者を増やす取組として、音楽サロン、足元教室、健康づくりミニデイなどの介護予防教室を各公民館で開催しています。体操したり、歌ったり、楽しみながら介護予防について学ぶ他、おしゃべりや茶話会など地域高齢者の皆さんの交流の場にもなっています。



仁井将貴さん



みんなの チャレンジアート展

「みんなのチャレンジアート展」は、障がいのあるアーティストの展覧会です。障がいのある人の文化芸術活動の振興を目的に、平成27年度から始めました。展覧会場には、個性豊かなアート作品や、趣向を凝らしたオブジェが展示されます。

また、作品展示の他に、ワークショップや講演会、アートライブ(作家による実演)なども行っています。さらに、作品やグッズを販売し、障がいのある人の自立を支援しています。パワフルで楽しい世界が広がるイベントで、毎年、好評を得ています。



太田宏介さん



ふくしフェスティバル

市民一人一人が福祉に関する正しい理解を深めることを目的に、福祉啓発事業として、毎年、開催しています。

多くの福祉団体や関係者が参加して、クイズラリーやワークショップ、ボランティア体験など福祉にふれることができるイベントを実施しています。

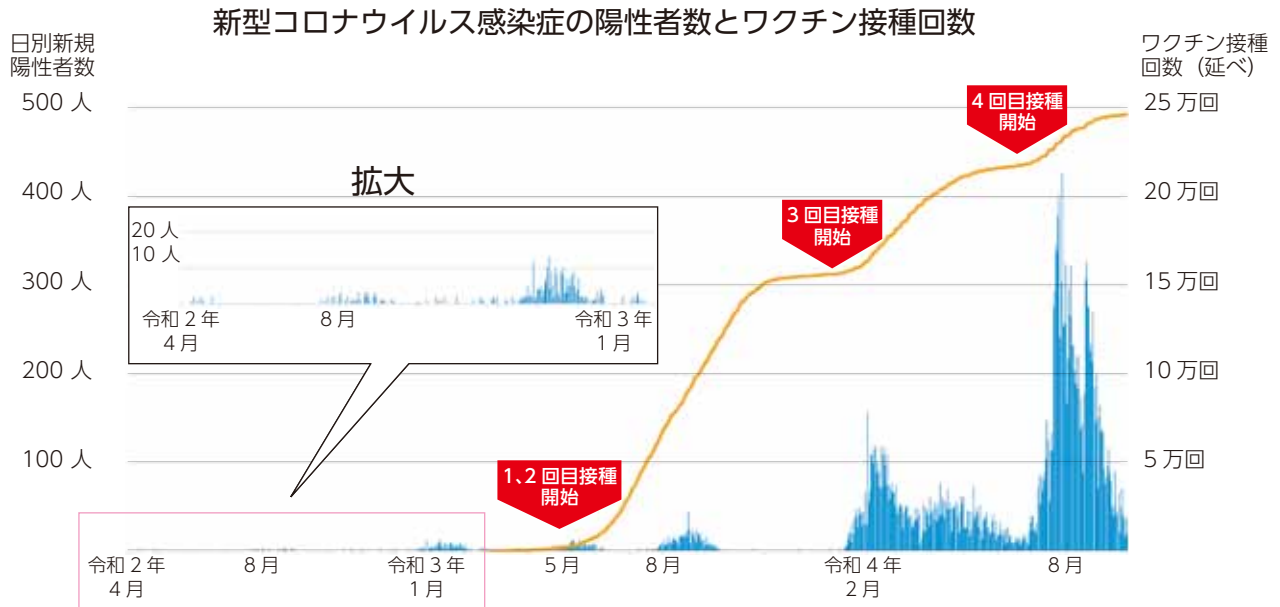


新型コロナウイルス感染症の広がりと対策

新型コロナウイルスが猛威をふるい、国内でも陽性者が確認され、飛び火するように各地に感染が拡大しました。

その後、ワクチンが開発され、その使用が日本でも認められたことにより、令和3年（2021年）に、全国的にワクチン接種が行われるようになりました。

大野城市でもワクチン接種が始まりましたが、ワクチン接種を受けていてもウイルスの変異株が生じ、その度に陽性者が増加する波が何度も到来し、現在もその渦中にあります。



感染拡大防止のための市役所の主な取組

大野城市では新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、ワクチン接種をはじめ、さまざまな取組を行いました。

■新型コロナウイルス感染症対策本部会議

刻一刻と変化する市中の感染状況を把握や分析、また、感染拡大防止などを検討するため、令和2年2月に新型コロナウイルス感染症対策本部を組織し、令和4年10月までに会議を310回開催しました。会議後には、すみやかに会議録を職員や関係機関と共有しています。

■市の取組（ワクチンを除く）

- ・広報やホームページによる「新しい生活様式」など感染予防対策の呼びかけ
- ・イベントの縮小や中止
- ・公共施設の感染予防の徹底
- ・マスクと消毒用アルコールの配布
- ・支援が必要な人や事業所への市独自の給付金の給付
- ・食料品等支給、買物支援など

〔市の施設〕

- ・窓口に透明のビニールシートやアクリルパーティション設置
- ・椅子やソファに間隔をあけて座るように促す案内表示
- ・エレベーターに乗る人数制限と立ち位置の案内表示
- ・出入口、各課のカウンターなどに手指消毒用アルコール設置

これらの他、陽性者や濃厚接触者が確認された際には、感染を広げないために施設や学校の休業・消毒など状況に応じた迅速な対応を行いました。



ワクチン接種



会議



総合案内センターの飛沫防止対策

小中学校での感染拡大防止の取組

児童生徒は、手洗い、手指消毒などを行い、教育活動と感染予防対策の両立を図りました。
感染拡大の時期には、学びを止めないようにオンラインを活用するなど、工夫して授業を行いました。



オンライン授業



小中学校で市職員が消毒方法を説明し、実際に学校職員が消毒する様子



順番待ちの立ち位置案内



教室に入る前の消毒



教室内の換気

私たちの暮らしは、さまざまなお仕事に携わる人々に支えられています

新型コロナウイルス感染症の流行下で、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置、福岡コロナ特別警報など、長期間にわたり度重なる制限、措置が繰り返されました。この間、一人一人が感染拡大防止の努力を続け、日々の生活・仕事に懸命に取り組んできました。

エッセンシャルワーカー（社会機能維持者）と呼ばれる人々は、感染リスクと隣り合わせで、私たちの暮らしを支えています。



西鉄天神大牟田線高架開通（雑餉隈駅付近から下大利駅付近）



みんなが待ちわびた西鉄天神大牟田線の高架化。

令和4年8月28日に雑餉隈駅～下大利駅間が高架に切り替わりました。

開通を記念したイベントが各地で開催され、多くの市民が新たな出発を祝いました。

旧線路上を歩く「廃線ウォーク」のイベントでは、参加者は長年にわたって私たちの生活を支えてくれた線路敷きに対して感謝の思いを抱きつつ、お別れを惜しみました。今後、高架下の利活用を進め「にぎわい」と「やすらぎ」の空間を創設していきます。



廃線ウォーク

高架切替にむけた踏切撤去作業

自然豊かないこいの森

いこいの森は南地区の牛頸ダム周辺に位置し、豊かな自然や水辺環境を活かしたキャンプ場や公園があります。令和4年2月に、いこいの森中央公園の遊具が新しくなり、小さな子どもも大人も楽しめる場所として、市内外を問わず多くの人に親しまれています。



中央公園



水辺公園



テントサイト

花いっぱい運動

緑化啓発のために、公民館やコミュニティセンターなどの公共施設に花を植える、花いっぱい運動を実施しています。その活動の一環で、毎年秋には保育所で、園児たちが花壇やプランターに花を植えています。その後も園児たちがみんなで水やりをして、卒園式まできれいな花を咲かせます。



大野南保育所における花いっぱい運動

コミュニティバスまどか号

平成15年の運行開始から延べ800万人以上、年間30万人以上の利用があります。

まどか号導入までの経緯は、平成11年の西鉄路線バス白木原線廃止の他、北・東地区の交通空白地の解消、交通弱者の移動支援などさまざまな課題を解決するため、市職員によるプロジェクトチーム・市民委員・学識者・各種団体などによる検討委員会が多角的な視点で調査・研究を行い、平成15年3月1日に運行を開始しました。



まどか号の乗降風景



ノンステップ対応



交通系ICカード対応



時刻表と
運行ルート

加圧ポンプ付き給水車の導入

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震において、市の職員が給水支援活動に従事した際に得られた知識と経験を生かし、応急給水活動体制を整備するために「加圧ポンプ付き給水車」(最大容量 1.8 m³) 1 台を新たに導入しました。

従来の給水方法(拠点給水)では、トラックにタンクを積載し給水拠点(避難所など)で給水を行っていましたが、その場所でしか給水できないこと、タンクが空になれば補給に戻る必要があり非効率でした。

「加圧ポンプ付き給水車」(自ら送水・給水が可能)の導入により、従来の拠点給水ではなく、各給水拠点を巡回し、拠点に設置したタンクに補給する方法(運搬給水)にすることで、効率よく給水活動を行うことが可能となりました。



従来の給水車



加圧ポンプ付き給水車



市民総ぐるみ応急給水訓練(令和元年 11 月)

みんなで地域を見守る 安全安心なまちづくり

平成19年9月から、毎月第2、4金曜日を「一斉街頭活動の日」とし、地域住民・市・警察・消防団などが協力して、夜間の防犯パトロール活動を行っています。

これは、筑紫地区安全安心まちづくり推進協議会の取組として、筑紫地区各市と春日警察署、筑紫野警察署が共同で実施している事業です。

令和4年3月末現在、大野城市では720人の市民が防犯パトロール登録員となり、この事業に協力しています。



SDGs取組紹介

ゼロカーボンシティ都市宣言

大野城市は、令和3年2月22日、先人たちが築いてきた「自然豊かなふるさと大野城」を未来に生きる次の世代に引き継いでいくため、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ大野城」を宣言しました。

再生可能エネルギー機器の利用促進

地球温暖化対策の一環として、市庁舎などの公共施設に太陽光パネルを設置する他、平成24年度から太陽光発電システムの設置に対して補助金を交付しており、令和4年度からは補助対象にホームエネルギーマネジメントシステム（HEMS）、V2H充放電設備を加えた他、定置用蓄電システム単体の設置にも対応するなど、再生可能エネルギーの利用推進に取り組んでいます。



市庁舎の太陽光パネル

おおのじょう緑のトラスト運動

市域の東部と南部に豊かな自然が残っていますが、これは先人たちの努力の賜物であり、それを引き継いだ我々は、限りある自然を守り育て次世代へリレーする義務があります。

大野城市の貴重な里山を守る活動を行なっている(公財)おおのじょう緑のトラスト協会に対して支援を行い、里山の保全を推進しています。

おおのじょう緑の
トラスト協会紹介ページ



自然観察会



森林整備（下草刈り）



伐採した竹の炭づくり作業

森林の整備

森林は、土砂災害防止、二酸化炭素吸収、水源かん養(水を蓄え、育み、守る働き)などの機能で私たちの暮らしを豊かに守ってくれています。

この森林の力を維持していくためには、下刈や間伐などの整備が不可欠であるため、定期的に「伐採」、「搬出」、「売却」、「植栽」、「下刈」というサイクルで整備を行い、健全な森林の維持に努めています。



間伐前



間伐後



間伐作業

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

大野城市のあゆみ

天智 2 年 (663 年)

白村江の戦いで、日本（倭）は唐・新羅に大敗

天智 3 年 (664 年)

唐・新羅の来襲に備えて、対馬・壱岐・筑紫の防人を配して水城を築く。

天智 4 年 (665 年)

おくらいふくる し ひ ふく お

天智天皇の命により、百済人の憶礼福留と四比福夫によって、大野城が築城

寛延 3 年 (1750 年)

米・麦などの諸物資を福岡に運ぶための運河「新川」が開かれる。

明治 4 年 (1871 年)

7 月 廃藩置県で福岡県御笠郡となる。

明治 22 年 (1889 年)

4 月 11 村と井相田の一部が合併、大野村が誕生（人口 3,855 人・680 世帯）

明治 29 年 (1896 年)

4 月 御笠郡・那珂郡・席田郡が合併し、筑紫郡となる。

大正 10 年 (1921 年)

水城跡、国の史跡に指定

昭和

昭和 7 年 (1932 年)

大野城跡、国の史跡に指定

昭和 25 年 (1950 年)

10 月 町制施行、大野町となる。（人口 10,192 人・1,928 世帯）

昭和 28 年 (1953 年)

3 月 水城跡、国の特別史跡に指定

昭和 35 年 (1960 年)

4 月 町庁舎を、瓦田 669-1 から曙町二丁目 14 番地に移転
竹田家所蔵文書、福岡県文化財に指定

10 月 町制施行、10 周年

昭和 39 年 (1964 年)

4 月 国土調査を実施（8 カ年計画）

昭和 40 年 (1965 年)

4 月 広報「おおの」第1号発刊
水道の給水開始

10 月 国勢調査実施（人口 24,208 人・6,049 世帯）

昭和 42 年 (1967 年)

4 月 筑紫郡四力町清掃施設組合によるじんかい処理場が牛頸に完成

昭和 43 年 (1968 年)

7 月 御笠川東部地区に給水を開始（全町給水）
11 月 第 1 回大野町文化祭を開催

昭和 44 年 (1969 年)

4 月 燃えないごみの収集スタート
5 月 御笠の森に万葉歌碑ができる。

昭和 45 年 (1970 年)

2 月 春日町・大野町消防組合設立
5 月 聖観音立像、福岡県文化財に指定
10 月 町制施行 20 周年を記念して、町章を制定
国勢調査実施（人口 33,818 人・8,961 世帯）

昭和 46 年 (1971 年)

4 月 長期総合振興計画スタート
8 月 南地区が自治省から「モデル・コミュニティ」に指定



時期不詳 雑餉隈どんたく



昭和 32 年 (1957 年)
国鉄白木原駅開業



昭和 41 年 (1966 年)
皇太子と美智子妃
(県立身体障害者福祉センター視察)



昭和 45 年 (1970 年)
町制施行 20 周年記念パレード



昭和 45 年 (1970 年)
町制施行 20 周年記念行事
(瓦田区「まどか一家」)



昭和 45 年 (1970 年)
町制施行 20 周年町民体育大会

大野城市誕生

昭和 47 年 (1972 年)

- 4 月 市制施行、大野城市となる。(人口 36,757 人・9,740 世帯)
初代市長に森山幸雄氏
筒井の井戸、福岡県文化財に指定
- 7 月 旧南地区コミュニティセンター完成

昭和 48 年 (1973 年)

- 3 月 旧中央地区コミュニティセンター完成
第 1 回体力づくり市民陸上競技大会開催

昭和 49 年 (1974 年)

- 8 月 小水城、国の特別史跡に指定
- 11 月 第 1 回市政アンケート実施

昭和 50 年 (1975 年)

- 3 月 九州自動車道 (古賀-鳥栖) 開通
- 4 月 初の市議会議員選挙
- 7 月 大野城市のみどりを守り育てる条例施行
- 10 月 国勢調査実施 (人口 52,169 人・15,107 世帯)
市の木を「クロガネモチ」に、市の花を「キキョウ」に決定

昭和 51 年 (1976 年)

- 3 月 旧北地区コミュニティセンター完成
- 6 月 四王寺県民の森完成
- 12 月 大野城跡の市内部分が国の特別史跡に追加指定

昭和 52 年 (1977 年)

- 4 月 市総合振興計画 (第 2 次総合計画) スタート
- 10 月 下水道供用開始 (雑餉隈町)
地方自治 30 周年記念自治大臣表彰を受ける。
- 11 月 市民憲章制定
- 12 月 都市計画税条例 (53 年度から実施) 施行

昭和 53 年 (1978 年)

- 1 月 福岡都市圏広域行政推進協議会発足
- 2 月 大野城太宰府環境施設組合設立
- 8 月 第 1 回大野城市少年の船出発

昭和 54 年 (1979 年)

- 1 月 新庁舎開庁
- 6 月 心身障害児 (者) 通園施設「もちの木学園」開園
- 12 月 大野城市環境処理センター本格運転開始

昭和 55 年 (1980 年)

- 5 月 ごみの分別収集開始
- 7 月 建築協定条例施行
大野城市太宰府町環境衛生施設組合火葬場「太宰府北寿苑」完成
- 10 月 国勢調査実施 (人口 64,109 人・19,842 世帯)

昭和 56 年 (1981 年)

- 4 月 総合福祉センター完成
開発行為等指導要綱策定
旧東地区コミュニティセンター完成
- 5 月 仲島遺跡から約 2,000 年前の中国「新」時代の青銅貨幣「貨布」出土
- 11 月 第 1 回まどか市民まつり開催
大野城市高齢者事業団スタート



昭和 47 年 (1972 年)
市役所名板除幕式



昭和 50 年 (1975 年)
九州自動車道 (古賀-鳥栖) 開通



昭和 51 年 (1976 年)
四王寺県民の森オープン

大野市にならなかった理由



昭和 57 年 (1982 年)

- 2 月 市内初の住居表示（下大利団地）実施
- 5 月 総合公園に総合体育館・野外活動センターオープン
- 8 月 第 1 回おおの大文字まつり開催
- 10 月 市制 10 周年記念式典開催

昭和 58 年 (1983 年)

- 4 月 第 3 次大野城市総合計画スタート
- 5 月 春日大野城衛生施設組合設立

昭和 59 年 (1984 年)

- 4 月 春日大野城消防署南出張所開設
- 家庭の日（毎月第 3 日曜日）制定

昭和 60 年 (1985 年)

- 3 月 資源回収センター運転開始
- 5 月 歩け歩け運動推進大会開催
- 10 月 国勢調査実施（人口 69,435 人・22,067 世帯）

昭和 61 年 (1986 年)

- 2 月 牛頸ダム記念館完成

昭和 62 年 (1987 年)

- 4 月 大野城市勤労者体育センター完成
- 10 月 市制 15 周年記念市民大運動会開催
- 11 月 第 1 回中学生弁論大会開催

昭和 63 年 (1988 年)

- 9 月 大野城市・春日市都市計画マスタープラン策定委員会発足
- 11 月 市の歌を「大野城讃歌」、イメージキャラクターの愛称を「まどかちゃん」に決定



昭和 57 年 (1982 年)
総合体育館



昭和 60 年 (1985 年)
資源回収センター
(写真は平成 3 年)



昭和 60 年 (1985 年)
第4回おおの大文字まつりの子ども
みこし



昭和 63 年 (1988 年)
とびうめ国体記念いかだ大会
(写真は平成 2 年)

平成

平成元年 (1989 年)

- 2 月 市民情報オンラインシステム導入
- 3 月 JR九州鹿児島本線の白木原駅を大野城駅に改称
- 4 月 大野城総合公園の愛称を「まどかパーク」に決定
- 5 月 クリーンシティ「おおのじょうの日」実施
- 6 月 第 36 回全日本勤労者弓道選手権大会開催
- 9 月 市長選挙 市長に古賀典氏
- 第 1 回まどかリンピック開催
- 11 月 大野城市暴力追放運動推進会議発足

平成 2 年 (1990 年)

- 1 月 政治倫理条例施行
- 2 月 障害者きょうどう作業所（まどか作業所・ききょうの里）オープン
- 4 月 地域づくりモデル指定事業制定
- 市民図書室と歴史資料展示室オープン
- 6 月 奨学資金条例施行
- 9 月 情報公開条例施行
- 10 月 国勢調査実施（人口 75,214 人・25,269 世帯）
- 第 45 回国民体育大会弓道競技会開催
- 大野城市イメージキャラクター「まどかちゃん」誕生
- 11 月 県営牛頸ダム竣工

平成 3 年 (1991 年)

- 4 月 自然環境保護条例施行
- 7 月 国際交流基金で中学生海外派遣
- 10 月 プライバシー保護条例施行



平成元年 (1989 年)
第1回まどかリンピック



平成2年 (1990 年)
牛頸ダム竣工

平成 4 年 (1992 年)

- 4 月 市制 20 周年記念式典開催
大野城いこいの森中央公園オープン
第 1 回大野城いこいの森ロードレース開催
- 5 月 青少年センターオープン (200 ミリ天体望遠鏡設置)
- 6 月 北市民プールオープン (ウォーター 슬라이ダー・ローラースケート場を併設)
- 10 月 市民慶弔制度スタート



平成 4 年 (1992 年)
大野城いこいの森中央公園

平成 5 年 (1993 年)

- 1 月 大野城市女性計画を策定
- 4 月 デイサービス事業スタート
デイサービスセンター・在宅介護支援センターオープン
春日大野城消防本部・署新庁舎 (春日市春日公園) 完成
- 9 月 市長選挙 市長に後藤幹生氏
- 10 月 空き缶等の散乱防止及びその再資源化の促進に関する条例施行
21 世紀の大野城市を考えるまちづくりアンケート実施
- 12 月 移動市長室スタート
小学校に教育用コンピューターを導入



平成 4 年 (1992 年)
青少年センター・北市民プール

平成 6 年 (1994 年)

- 3 月 貨布・移動式竈などを大野城市指定文化財に指定
- 4 月 大野城市老人保健福祉計画を策定
移動図書館「わくわく号」運行
大野城市いこいの森イメージキャラクターの愛称を「ハバリィ」に決定
- 7 月 有料指定ごみ袋制実施
- 9 月 タウン・ディレクター、市政への提言制度「タウンカード」など開始
- 10 月 大野城市子ども議会開催



平成 5 年 (1993 年)
春日大野城消防署移転

平成 7 年 (1995 年)

- 3 月 中央デイサービスセンター・在宅介護支援センター開所
- 4 月 春日大野城リサイクルプラザ完成
- 5 月 御笠の森・薬師の杜・高原家所蔵文書を市の指定文化財に指定
- 6 月 いこいの里オープン
- 10 月 国勢調査実施 (人口 82,903 人・29,549 世帯)
- 12 月 環境基本条例制定

平成 8 年 (1996 年)

- 3 月 人権を尊ぶまちづくり条例施行
- 4 月 第 4 次大野城市総合計画スタート
- 5 月 ことばの教室・障害児療育事業開始
(財) おおのじょう緑のトラスト協会設立
- 7 月 粗大ごみ戸別収集・有料化スタート
市内循環バス (まどかちゃん号) 路線開設
大野城まどかぴあオープン
- 11 月 (財) 大野城市体育協会設立
24 時間巡回型ホームヘルプサービス開始
第 1 回生涯学習フェスティバル開催



平成 6 年 (1994 年)
移動図書館わくわく号運行開始

平成 9 年 (1997 年)

- 3 月 すこやか交流プラザオープン
第 1 回大野城市女性フォーラム開催
- 6 月 男女共同参画都市宣言
- 11 月 春日大野城消防署東出張所開設

平成 10 年 (1998 年)

- 3 月 大野城市環境基本計画策定
すこやか・ふれあいプラン (地域保健福祉計画) 策定
- 4 月 青少年アクションプランスタート
- 11 月 第 1 回女性の翼 (オーストラリア)



平成 8 年 (1996 年)
大野城まどかぴあ



平成 9 年 (1997 年)
すこやか交流プラザ

平成 11 年 (1999 年)

- 3 月 大野城市公式ホームページ開設
福岡都市高速道路 2 号線と九州自動車道が太宰府インターチェンジで接続
大野城市都市計画マスタープラン策定
JR大野城駅東口広場完成
- 4 月 高齢者生きがい創造センターオープン
中央コミュニティセンターオープン
- 6 月 南コミュニティセンターオープン
- 8 月 大野城市国際交流協会設立



平成 11 年 (1999 年)
JR大野城駅東口広場開場式

平成 12 年 (2000 年)

- 2 月 戸籍電算化システム導入
- 4 月 ペットボトル・白色トレイ分別収集開始
- 10 月 国勢調査実施 (人口 89,414 人・33,272 世帯)

平成 13 年 (2001 年)

- 4 月 南デイサービスセンターオープン
中央・南コミュニティセンターで「遊びの広場」オープン
緑の基本計画策定



平成 11 年 (1999 年)
高齢者生きがい創造センター

平成 14 年 (2002 年)

- 4 月 市制施行 30 周年
子育て支援センターオープン
ファミリー・サポート・センターおおのじょう開設

平成 15 年 (2003 年)

- 3 月 コミュニティバス「まどか号」運行開始
- 4 月 ファミリー交流センターオープン
- 8 月 特産品、麦焼酎「吟醸磨き大野城」発売開始
- 12 月 北コミュニティセンターオープン
杉内俊哉投手 (プロ野球) に大野城市民スポーツ栄誉賞を授与



平成 11 年 (1999 年)
中央コミュニティセンター開館式

平成 16 年 (2004 年)

- 3 月 東コミュニティセンターオープン
- 4 月 子ども情報センターオープン
筑紫地区精神障害者生活支援センターオープン
- 10 月 とびうめ国文祭「ふくおか演劇祭」「まどか映像祭」開催

平成 17 年 (2005 年)

- 3 月 福岡県西方沖地震 (3 月 20 日)
- 5 月 北デイサービスセンターオープン
- 9 月 市長選挙 市長に井本宗司氏
- 10 月 大野城市史刊行
国勢調査実施 (人口 92,748 人・35,272 世帯)
- 11 月 ねんりんピックふくおか 2005 ペタンク競技大会開催



平成 18 年 (2006 年)
日本百名城認定証

平成 18 年 (2006 年)

- 2 月 大野城跡、日本百名城に認定
- 4 月 男女共同参画条例施行
防犯パトロールカー (青パト) を設置
- 5 月 福岡都市圏南部環境事業組合設立



平成 18 年 (2006 年)
男女共同参画条例制定記念講演会

平成 19 年 (2007 年)

- 4 月 (財) おおのじょう緑のトラスト協会が自然環境功労者環境大臣表彰を受賞
- 10 月 「第 27 回緑の都市賞」内閣総理大臣賞を受賞
- 11 月 大野城市役所コールセンター開始
週末窓口サービス開始
「コミュニティのまち大野城」総務大臣賞を受賞

平成 20 年 (2008 年)

- 5 月 総合窓口「まどかフロア」オープン
- 6 月 新たなコミュニティ構想策定



平成 18 年 (2006 年)
防犯パトロールカー (青パト)

平成 21 年 (2009 年)

- 2 月 牛頸須恵器窯跡、国史跡に指定
- 4 月 第 5 次大野城総合計画スタート
高齢者移動支援「ふれあい号」運行開始（南地区）
筑慈苑施設組合加入
- 7 月 杉内俊哉投手（プロ野球）に大野城市民特別栄誉賞を授与



平成 21 年 (2009 年)
杉内俊哉投手に大野城市民特別栄誉賞を授与

平成 22 年 (2010 年)

- 2 月 古代山城プレサミット開催
- 3 月 「ふくおかを元気にする共助社会づくり活動表彰 共助社会づくり奨励賞」と「第 2 回ふくおか地域づくり活動賞」を南地区コミュニティ運営委員会がまちづくりパートナー基金設置
- 4 月 安全安心まちづくり条例と暴力団排除条例施行
- 6 月 災害時要援護者支援制度開始
- 9 月 古代山城サミット・日本最古の山城まつり開催
「大野城」のキャラクターが「大野ジョー」と「タスケ」に決定
- 10 月 国勢調査実施（人口 95,087 人・36,778 世帯）



平成 23 年 (2011 年)
本多雄一選手に大野城市民スポーツ栄誉賞を授与

平成 23 年 (2011 年)

- 3 月 東日本大震災（3 月 11 日）
- 4 月 コミュニティ条例施行・「新しいコミュニティのかたち」スタート
- 5 月 災害情報伝達システムを市内全域に整備
- 12 月 本多雄一選手（プロ野球）に大野城市民スポーツ栄誉賞を授与



平成 24 年 (2012 年)
ご当地ナンバープレート交付開始

平成 24 年 (2012 年)

- 1 月 福祉サービス案内コーナー開設
- 3 月 地域別総合避難訓練（逃げタオル運動）開始
飲酒運転撲滅都市宣言
- 4 月 市制施行 40 周年 大利アンダーパス開通
- 6 月 ご当地ナンバープレート（125 cc以下のバイク）の交付開始
- 10 月 人間空気イスでギネス世界記録™達成

平成 25 年 (2013 年)

- 11 月 乙金多目的広場オープン



平成 25 年 (2013 年)
乙金多目的広場オープン

平成 26 年 (2014 年)

- 8 月 水城・大野城・基肄城 1350 年記念式典
- 10 月 まどか号 500 万人突破記念キャンペーン
- 11 月 水城跡フェスタ開催・水城ゆめ広場オープン

平成 27 年 (2015 年)

- 3 月 飯塚大野城線・現人橋乙金線開通
- 8 月 大野城跡フェスタ開催
- 12 月 水道事業給水開始 50 周年記念式典



平成 27 年 (2015 年)
飯塚大野城線・現人橋乙金線開通

平成 28 年 (2016 年)

- 4 月 平成 28 年熊本地震（4 月 16 日）、給水車派遣
- 5 月 四王寺山フェスタ開催・大野城歴史の散歩道完成
- 8 月 人口 10 万人突破

平成 29 年 (2017 年)

- 4 月 水城跡、続日本 100 名城に選定

平成 30 年 (2018 年)

- 7 月 大野城心のふるさと館オープン

平成 31 年 (2019 年)

- 4 月 善一田古墳公園完成



平成 28 年 (2016 年)
熊本地震で給水車派遣

令和

令和元年（2019年）

11月 生誕30周年を迎え、まどかちゃんリニューアル

令和2年（2020年）

2月 新型コロナウイルス感染拡大

6月 大野城市の文化財の一部が日本遺産『古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～』として広域認定

令和3年（2021年）

1月 青少年の居場所「ユープレ」オープン

5月 新型コロナウイルスのワクチン接種開始

令和4年（2022年）

4月 市制施行50周年

8月 西鉄大牟田線連続立体交差事業開通（下大利～雑餉隈駅間）



令和2年（2020年）
大野城市の文化財の一部が日本遺産
『古代日本の「西の都」～東アジア
との交流拠点～』として広域認定



市制施行
50周年を記念し
大野城市も
博多どんたく
に参加



歴代首長



初代村長 高原 善造
(明治22年5月～明治26年5月)



第2代村長 高原 謙次郎
(明治26年5月～明治30年5月)



第3・5代村長 森山 桂二
(明治30年10月～明治42年1月)
(大正6年3月～大正10年2月)



第4代村長 末永 郁次
(明治42年2月～大正6年2月)



第6代村長 森山 隆之助
(大正10年4月～昭和5年9月)



第7代村長・第2代町長 山上 高太郎
(昭和5年10月～昭和21年10月)
(昭和30年4月～昭和38年4月)



第8代村長・初代町長 白壁 喜平次
(昭和21年10月～昭和30年4月)



第3代町長 河波 孝夫
(昭和38年4月～昭和40年7月)



第4代町長・初代市長 森山 幸雄
(昭和40年9月～平成元年9月)



第2代市長 古賀 典
(平成元年9月～平成5年9月)



第3代市長 後藤 幹生
(平成5年9月～平成17年9月)



第4代市長 井本 宗司
(平成17年9月～現在)

大野城市のあらまし

大野城市は東経130度28分、北緯33度32分で、福岡市の南に位置しています。市域は東西約6キロメートル、南北約8.5キロメートルで面積は26.89平方キロメートルです。市の中心部の幅は約1キロメートルしかなく、ひょうたん型をしています。

東北部には四王寺山や乙金山、南部と南西部には背振山系の牛頸山を中心とする小連山があり、都市部としては貴重な緑がまだまだ残されています。中心部は平坦で、そこで牛頸川と御笠川が合流し、やがて博多湾へ注いでいます。

市域内には九州の交通動脈である国道3号、JR九州の鹿児島本線、西鉄天神大牟田線などが南北に貫通するとともに、九州自動車道太宰府インターチェンジ、それに接続されている福岡都市高速道路や福岡空港にも近接していることから、福岡都市圏で最も交通の便に恵まれた地域となっており、住みやすいまちとして人口増加が続いています。



市民憲章 昭和52年11月制定

大野城市は、西暦665年水城大堤とともに築かれたわが国最古の山城「大野城」にその名を由来し、古い歴史と豊かな自然に恵まれた緑のまちです。

わたしたち市民は、互いにまどかな心のふれあいを大切にしながら、たくましく発展する未来をめざして、ここに市民憲章を定めます。

- 一、自然を大切にし 緑と花でつまれた 清らかなまちをつくりましょう
- 一、郷土を愛し きまりを守り 心豊かなまちをつくりましょう
- 一、おとしよりをいたわり こどもの夢を育て あたたかいまちをつくりましょう
- 一、文化とスポーツに親しみ 人の和をひろめ 健康で明るいまちをつくりましょう
- 一、働くことに喜びをもち 活気にみちたまちをつくりましょう

市章 町制20周年を記念し、昭和45年10月制定

全体を「大」の字で表し、中心の三角形が「躍進」、両側の三角形が「協調」を表現。



市の木 クロガネモチ

昭和50年10月制定

常緑で樹形が良く、年中濃い緑をしています。花の少ない冬季に長期間にわたり赤い実をつけ、長い間観賞できます。

また、その実は野鳥が好み、公害や病虫害に強いのも特徴です。



市の花 キキョウ

昭和50年10月制定

紫色の花弁が大野城市の「大」の文字を思わせ、優しさの中にりんとした品格をもっています。また、乾燥にも強く、日陰にも耐え、栽培しやすい宿根草です。

大野城市キャラクター



大野ジョー

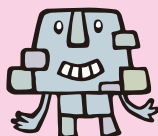
大野城市 PR キャラクター
チャームポイントは大野城跡の石垣をモチーフにしたリーゼント！
ダンスが特技の 12 歳。
キレッキレのダンスで市内外の老若男女を魅了するナイスガイ。
大野城市を PR するため奮闘中！



まどかちゃん

大野城市イメージキャラクター
平成 2 年のとびうめ国体において、本市で弓道競技大会が開催されたことをきっかけに誕生。生誕 30 周年を迎えた令和元年にリニューアル。市の花「ききょう」をモチーフにしたヘアピンがチャームポイント。「まどかな心」を皆さんに伝えるべく活躍中！

大野ジョーのおともだち



イシガックン



ヤマジロウ



タスケ

平成 22 年に第 1 回古代山城サミット大野城大会の PR キャラクターとして誕生。「大野城物語～タスケ岩の伝説～」の主人公をイメージ。



ハバリイ

平成 6 年、大野城いこいの森のイメージキャラクターとして誕生。ハバリイとは、スペイン語で「いのしし」の意味。

大野ジョー公認応援ソング「大野ジョー」

作詞・作曲：E.M.O

ひょうたんのような形した ボクの町 緑あふれるベッドタウン
トサカに秘めた大野城跡の石垣が 長い歴史を重ねてきた証
だからもっともっと好きになってよ
大野城から見上げた空はキレイで 流れる雲を追いかけて
step by step 歩むボクらの足跡
ひとつひとつが大切な 想いをきざむ history

歴史きざんだ水城跡 境にして そびえる四王寺 見守っている
スカーフのように真っ赤に燃える大の字は 心をひとつにするお祭り
だからもっともっと集まってきてよ
大野城から見上げた空はキレイで 流れる雲を追いかけて
step by step 歩むボクらの足跡
ひとつひとつが大切な 想いをきざむ history
君とボクがつむぐ memory

セリフ：さぁみんな行くじょー！

LALALALALA... I love this town...



まどかちゃんテーマソング

作詞・作曲：筑紫中央高等学校軽音楽部

スポーツ大好きまどかちゃん
今日も元気なまどかちゃん
わたしのチャームポイント ききょうのヘアピン
にこにこ笑顔ときらきらおめめ
みんなにとどける「まどかな心」

みんなが大好きまどかちゃん
今日もおめかしまどかちゃん
わたしのチャームポイント ピンクのほっぺ
スポーツ大好きまどかちゃん
今日も元気なまどかちゃん
大野城大好きまどかちゃん

踊ってみよう！
歌ってみよう！



特産品・推奨品



貨布せんべい

貨布と大野城市のイベントの様子が焼印されています。シナモン味、カレー味、プレーン味の3種類の味が楽しめます。カリっとおいしい煎餅です。



太平閣の天津包子

1個ずつ手作りしている本格的な包子。香りと皮の引き、肉あんのボリュームあるうまさ評判です。



呑鳥の唐揚げ

鉄鍋で揚げるこだわりで外はカリッと中はジューシーです。



カクテル大文字 大野城ラブストーリー

まつりの時に赤々と燃える炎をイメージしたカクテル大文字と甘酸っぱい大野城ラブストーリーをお楽しみください。



平野松栄堂のおはぎ

甘さを抑えてキレがあるあんこは、北海道産の風味豊かな小豆を使用しています。



上黒酢なまみつ

厳選された酢と天然アカシヤ蜜をブレンドした黒酢。飲みやすく、健康が気になる人におすすめです。



おおの大文字

つばあんに柚子の味が効いています。大文字まつりで点灯する「大」の字の焼印をほどこしています。



大野ジョーROCK

日本最古の山城・大野城の石垣をモチーフとしたクッキー。「大野ジョー」くんのラベルが目印です。



大野ジョー ハッピーリング

空から眺める大野城跡がリング状であることから生まれた焼きドーナツです。



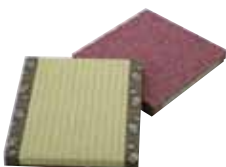
麦焼酎「大野城」 「樽大野城」

〈黒〉いこいの森の地下水と福岡県産の二条大麦でつくった、麦ならではの風味が効いた焼酎です。
〈白〉樽で熟成した焼酎をブレンドした複雑な香りと味わいの焼酎です。



大野城トレシー

大野城市を一望した図柄がプリントしてあるメガネや画面拭きです。



リバーシブル畳

天然和紙素材の畳表を使用し、ダニ・カビが発生しにくく衛生的な畳です。表がたたみ、裏がジュータンになっており、いろいろな場面で使用できます。



こてえ 鰻絵

漆喰を材料とする鰻絵は明治・大正時代に多く作られました。鰻絵美術館では200点ほどの鰻絵を展示しています。

三浦鰻絵美術館

〒816-052 大野城市下大利4丁目7
電話：092-596-0301

大野城 鶏ぽっかけ

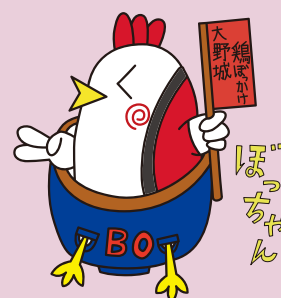


昔、大野城市では親睦の場のメの料理や家庭の手頃な料理として、ご飯にしょうゆ味の鶏の汁物をかけて食べていました。ご飯に汁を「ぶっかけ」たことから「ぽっかけ」と呼ばれています。

大野城 鶏ぽっかけの定義

- 一、鶏がらスープに鶏肉を入れる
- 二、ぽっかけ（ぶっかけ）る
- 三、野菜などで彩りをそえる

三つの定義を満たせば「大野城鶏ぽっかけ」となります。市内の各店舗で作り方や素材が工夫されたオリジナル鶏ぽっかけを食べることができます。



大野城鶏ぽっかけPRキャラクター
「ぽっちゃん」
(平成27年度大利小学校5年生作成)

数字で見る 大野城市

人 口
(令和4年9月30日)



102,585人

世 帯
(令和4年9月30日)



46,063戸

結 婚
1日当たり(令和3年)



1.2組

出 生
1日当たり(令和3年)



2.6人

死 亡
1日当たり(令和3年)



2.2人

転 入
1日当たり(令和3年)



16.0人

転 出
1日当たり(令和3年)



16.4人

認可保育施設
(令和4年9月30日)



21カ所

小中学校
(令和4年9月30日)



15カ所

ランドセルクラブ
(令和4年9月30日)



1,479人

図書館所蔵
(令和4年3月31日)



約26.8万点

公 園
(令和4年3月31日)



133カ所

コミュニティ施設
(令和4年9月30日)



35カ所

おタスケさんの登録
(令和4年9月30日)



217人

ファミサポ会員
(令和4年9月30日)



1,040人

市内のNPO法人
(令和4年9月30日)



30件

下水道普及率
(令和4年3月31日)



99.9%

ごみ排出量
1日当たり(令和3年度)



約77.4トン

古紙回収量
1日当たり(令和3年度)



約6.0トン

START

大野城市の

クイズ1

祝 1972
大野城市誕生

市の花「キキョウ」
に決定!

1975

祝 2002

市制 30 周年!
まどか号運行開始



1996

まどかぴあ
OPEN!

(財)おおのじょう緑の
トラスト協会
(財)大野城市体育協会設立

2005

大野城跡が
日本100名城に選定!

2003

4コミュニティセンター
勢ぞろい!

イベント6

クイズ3

祝 2012

市制 40 周年!
ギネスに挑戦
「人間空気イス」



人間空気イスで
動けなくなった...
一回休み

2016

人口 10 万人
達成!

イベント7

2010

大野ジョー誕生!

クイズ4

あそび方

- 1 好きなコマを選んで、サイコロをふる順番をきめよう!
- 2 サイコロをふって出た目の数だけコマをすすめよう!
- 3 止まったマスの出来事を読んでみよう!
- 4 「イベント」「クイズ」のマスに止まったら、各リストをみよう!
- 5 ぴったリマスに止まればゴール!みんなでゴールをめざそう!

クイズリスト

- 1 大野城市の名前の由来を答えよう!
→ 答えられたキミは天才!! 3マスすすむ!
- 2 大野城市の市の木は何でしょう?
→ 正解したら1マスすすむ!
- 3 大野ジョーの頭のリーゼントは何をイメージしている?
→ 正解したら1マスすすむ!
- 4 人間空気イスは、総勢何人が参加したでしょうか?
→ 正解したら自分をほめてあげる

右のポケットを
めくると答えが
わかるよ



コマはここから
ダウンロード!!!

※このお楽しみは、年度での表記で作成しています。

50 年をたどるすごろくゲーム

まどかちゃんソングはコチラ→



初!/
1978

第1回
大野城市少年の船

イベント1

クイズ2

イベント5



大野ジョーダンス

初!/
1981

第1回
まどか市民まつり

祝 1982

市制 10 周年!

第1回 おおの大文字まつり



1988

まどかちゃん 愛称決定!



イベント2

祝 1992

市制 20 周年!

いこいの森中央公園

/ OPEN! //



イベント4

初!/
1989

第1回 まどかインピック

イベント3

2019

まどかちゃん
リニューアル!

イベント8



祝 2022

市制 50 周年!

西鉄天神大牟田線
高架開通



GOAL

これからの大野城市を
キミはどんなまちにしたい?

イベントリスト

1. キミの夏休みの思い出をおしえて!
2. まどかちゃんの歌を1フレーズ歌う! 歌えたら1マスすすむ
3. いこいの森ロードレースに挑戦! 完走したけど疲れちゃったー! 1回やすみ
4. いこいの森のキャラクター「ハバリィ」の顔マネをして!
5. 大野ジョーのキレキレダンスをおどろう! おどれたら1マスすすむ
6. まどか号に乗ってひとっとび! サイコロをもう1回ふる
7. 大野城市の郷土料理「鶏ぼっかけ」を食べて元気いっぱい! サイコロをもう1回ふる
8. まどかちゃん、まどかぴあ、まどか号、この「まどか」の意味を言えるかな!?

50 年をたどるすごろくゲーム

まどかちゃんソングはコチラ→



大野ジョーダンス

クイズの答え

- 1 古代山城「大野城」
- 2 クロガネモチ
- 3 大野城跡の石垣
- 4 1,311 人